



1985年1月27日(日) 14:00開演

新宿文化センター

アマチュアオーケストラ

新交響楽団第106回演奏会

近衛秀麿：越天楽

Hidemaro Konoe Etenraku

ブラームス：交響曲第3番へ長調作品90

Johannes Brahms Symphony No.3 F-major Op. 90

I. *Allegro con brio*

II. *Andante*

III. *Poco Allegretto*

IV. *Allegro*

ホルスト：組曲《惑星》作品32

Gustav Holst "The Planets" Suite for large orchestra Op. 32

I. 火星／戦争の神

Mars, the Bringer of War

II. 金星／平和の神

Venus, the Bringer of Peace

III. 水星／翼をもった使いの神

Mercury, the Winged Messenger

IV. 木星／快樂の神

Jupiter, the Bringer of Jollity

V. 土星／老年の神

Saturn, the Bringer of Old Age

VI. 天王星／魔術の神

Uranus, the Magician

VII. 海王星／神秘の神

Neptune, the Mystic

客演指揮 山 岡 重 信

合唱 新星日響合唱団

合唱指揮 郡司 博

出演者紹介

山岡重信

1931年生まれ。早大理工学部卒業。ヴィオラをW. カルポーニ、作曲を小船幸次郎、指揮を岩城宏之、斉藤秀雄の各氏に学ぶ。

ヴィオラ奏者として読売日響等に在籍の後、1964年より藤原歌劇団副指揮者として指揮活動を開始した。

同年民音指揮者コンクールに入賞。読売日響の指揮者に就任し、ベートーヴェンの第9交響曲でデビューした。

1968年、日本音楽舞踊批評家賞を受賞。

その後、都響、群響他の指揮者を経て現在フリー。新響への客演は、75年のブルックナー《交響曲第4番》、81年の同《7番》、82年のベートーヴェン《田園》、バルトーク《オケゴン》等、今回で5回を数える。

山岡先生と新響

アマチュアの音楽の良さは、充分に時間をかけ、地道に練習を積み重ねながら、曲に対する共感をもって演奏会を行うところにあります。そこで、新響が指導をお願いする時の条件はただ一つ《アマチュア音楽家の良き理解者であり、いつも熱心に指導をして下さること》です。

山岡先生にお願いするのは今回で5回目ですが、いつも大変熱心にご指導下さいます。先生のご指導は、我々が曲に対して充分に共感を持っていることが前提となっており、団員それぞれの音楽に対する自主性が演奏上の大きなポイントとなります。

さて、今回は《惑星・ブラ3・越天楽》をとり上げますが、我々の曲に対する共感はどこまで深くなっているのでしょうか。

運営委員長 藤井章太郎

新星日響合唱団

新星日響合唱団は、聴衆とのより深く、広い結びつきを目指す新星日本交響楽団が、その活動の一環として広くアマチュアの愛好家に向けて音楽活動の場を開くために組織した合唱団。1974年のプロコフィエフ《アレクサンドル・ネフスキー》以来約10年、現在では団員数約500名、常任指揮者・郡司博氏のもと、新星日響とともに年3回の公演を行っている。

新交響楽団

新交響楽団は1956年3月に創立されて以来、四半世紀以上に恒り自主的に運営されているアマチュアオーケストラで、団員は会社員、主婦、学生など100余名より構成されている。

創立以来、音楽監督芥川也寸志の指導のもと、ソビエト及び国内の演奏旅行、ベートーヴェン・チクルス、ストラヴィンスキー3部作一挙上演等を行なった。

1976年の創立20周年記念演奏会「日本の交響作品展」により「芥川也寸志と新交響楽団」はアマチュアオーケストラとしては初めて第8回サントリー音楽賞を受賞、以来この邦人作品シリーズは継続され、今年4月の第107回演奏会では9回目を数え、邦人作品の演奏は新響の大きな特色となっている。また、1979年の第86回演奏会以来名誉指揮者山田一雄の指導により、マーラーの交響曲に取り組み、マーラーシリーズは昨年の第105回演奏会で6回目を数えた。

新響は邦人・マーラーを含め年4回の自主演奏会の他に、公共団体・学校等の依頼演奏会も行ない、アマチュアオーケストラとしては最高の演奏・企画を目指している。

曲目解説

近衛秀麿（編曲）／越天楽

編曲年代：1931年初頭モスクワ。

初演：1931年2月28日「近衛秀麿氏帰朝歓迎大演奏会」日比谷公会堂、編曲者指揮 新交響楽団（現N響）
これ以前にモスクワで指揮している。

出版：1935年龍吟社（チェレブニン・エディション）

使用楽譜：龍吟社

使用楽器：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、Es クラリネット1、Bクラリネット2、ソプラノ・サクソフォン1、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、スネア・ドラム、バス・ドラム、トライアングル、ピアノ、ハーブ、コントラバスを除く弦楽器。

演奏時間：約9分

近衛秀麿(1898～1973)は、東京帝大を中退し、ヨーロッパで作曲・指揮を学び、帰国後、新交響楽団（現N響）を設立、山田耕筰と共に日本の交響楽活動の基礎を築いた。

秀麿の兄、文麿は政界に進んだが、弟・直麿は、千年来宮中の雅楽に携ってきた近衛家の伝統に従い、雅楽を研究していた。この「越天楽」の編曲版は、直麿による雅楽の五線採譜を、西洋の管弦楽の響きで忠実に再現しようとしたもの。ところで、この原曲である雅楽「越殿楽」は、8世紀ごろ唐からもたらされたとも、日本で作曲されたとも言われ、定かではないが、優美で簡潔な旋律により、最も親しまれる雅楽曲であり、古くは学校唱歌としても歌われた。一般に雅楽は、舞を伴う「舞楽」と演奏のみによる「管弦」とに分けられるが、「越殿楽」は後者に属し、笙(しょう)・篳篥(ひちりき)・竜笛(りゅうてき)の管楽器、楽箏(がくそう)・楽琵琶の絃楽器及び、楽太鼓・鉦鼓・羯鼓(かっこ)の打楽器により演奏される。秀麿の編

曲は、これら東洋の古来の楽器の音色を再現するために、ヴァイオリンの奏法や、楽器毎の人数等、細かい指示がなされている。例えば、「フルート、オーボエ、ヴィオラは多いほど良い。日本古来のオーボエは西洋のものより20倍も大きな音を出す」とあり、ヴァイオリンも3部に分けられる為、6で割れる数に余った人数はヴィオラを補助するよう記されている。また、コントラバスが使われていないのも特異と言える。今でこそ管弦楽による和楽器の音色の再現は多く聞かれるが、当時大変珍しかった西洋の管弦楽器が日本古来の曲を演奏したこと、しかもこれがモスクワで初演されたことなど、日本の交響楽の黎明期と、その中での近衛秀麿子爵（初版の表紙に記されている）の意気込みに思いを馳せつつ、この曲を聞くのも興味深いものと思われる。

上原 誠

ブラームス／交響曲第3番

作曲年代：1883年

初演：1883年12月2日ウィーンにて（ハンス・リヒター指揮）

使用楽器：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽器。

演奏時間：約35分

ブラームスは、構想20年という長い歳月をかけた第1交響曲を43才のときにやっと完成したが、この第3交響曲は1883年、避暑地グイスバーデンで温泉にでもつかりながら(?)1年足らずで書いたという。

ちょうどその頃、現在のバイエルン放送響首席クラリネット奏者のブルンナー氏のおじいさんが、山へ芝刈りに行く途中、道端でブラームスに会い、なぜかチョコレートをもたらったという話は有名で

もないが、とにかくこの頃はブラームスとしては非常に脂ののった時期で、ヴァイオリン協奏曲、悲劇的序曲、ピアノ協奏曲2番などの逸品を矢継ぎ早に書きまくったという。かくしてこの年の秋、ヘ長調交響曲は完成した。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ

F—As—Fの基本動機が冒頭に現われ、以後しばしば登場する。

第2楽章 アンダンテ

クラリネットとファゴットによるヘ長調の素朴な旋律で始まり、木管と弦楽中心の温かく穏やかな気分に終始する。

第3楽章 ボコ・アレグレット

サガンの《悲しみよこんにちは》の映画音楽として有名になった。ホルンの出番を今か今かと待つ楽章。

第4楽章 アレグロ

ファゴットと弦楽器による3オクターブ・ユニゾンのヘ短調の旋律で始まり、突如として長い眠り(?)から醒めたトランペットとティンパニが登場、次第にこの曲のクライマックスとなるが、終わりに近づくとき穏やかになり、ヘ長調の和音で静かに曲を閉じる。

ホルスト／組曲《惑星》

作曲年代：1914～1917年

初 演：1919年2月27日、ロンドン・ロイヤルフィルハーモニック協会の演奏会にて(5曲のみ)。全曲は1920年11月15日、アルバート・コーツ指揮のロンドン交響楽団演奏会にて。

使用楽器：フルート4(3番はピッコロ、4番はピッコロ及びバスフルート持ち替え)オーボエ3(3番はバスオーボエ持ち替え)、コールアングレ、クラリネット3、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン6、トランペット4、トロンボーン3、テナーチューバ、バスチューバ、ティンパニ(奏者2人)、鉄琴、木琴、チューブラーベル、トライアングル、タンブリン、小太鼓、大太鼓、シンバル、タムタム、チェレスタ、ハープ2、オ

ルガン、弦楽器、女声合唱(6パート、オーケストラから離れた所で)

演奏時間：約45分

1. 火星／戦争の神

4分の5拍子、アレグロ。弦楽器のホル・レーニョとティンパニによるリズムで始まり、これが全曲を支配する。金管が鳴りわたり、一気呵成に終了。

2. 金星／平和の神

アダージョ。第1曲から一転して静かな曲。抒情的なソロ・ヴァイオリンが歌い、最後はチェレスタとハープの響きの中に消えていく。

3. 水星／翼をもった使いの神

8分の6拍子、ヴィヴァーチェ。スケルツォ風の曲。あちこちでモルス信号のようなリズムが飛び交い、軽妙——にできればしめたもの。

4. 木星／快樂の神

4分の2拍子、アレグロ・ジョコソ。これは解説をするまでもない。中間部はおなじみ木曜洋画劇場。

5. 土星／老年の神

4分の4拍子、アダージョ。延々とひたすらクレッシェンドする曲で、その頂点で警鐘のような鐘が鳴る。後半はフルートの静かな波形にのって弦楽器がゆっくりと動き、そのまま消えていく。

6. 天王星／魔術の神

4分の6拍子、アレグロ。金管のFの強奏につづいてティンパニが同じ音型でとどめをさす。登場楽器も多く非常に色彩豊かな曲。

7. 海王星／神秘の神

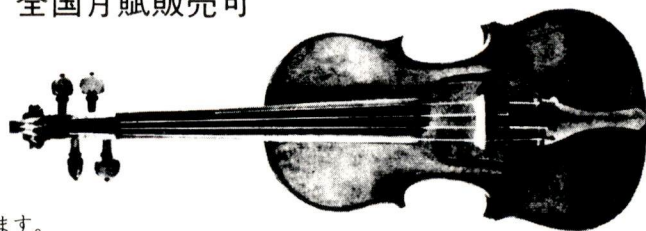
4分の5拍子、アンダンテ。終始、全部の楽器が最弱音で演奏する。後半には歌詞のない女声合唱が加わり、独特の雰囲気の中、最後は「聞こえなくなるまで」フェイド・アウトし、全曲を閉じる。

直輸入・直売

住友海上火災
〈動産総合保険付〉

弦楽器専門店

全国月賦販売可



弦楽器修理室完備 弓毛替・駒取替等すぐ出来ます。

アマチュア演奏家協会賛助会員／日本信販加盟店

文京楽器製造株式会社

〒112 東京都文京区小石川2丁目1-11
TEL 03 (811) 2084

RICOH

あなたは
世界で
いちばん
やさしい



Photo by Koichi Inakoshi



マイポート

RICOH FF-3 AF SUPER
標準価格〈本体〉42,800円 専用ソフトケース2,000円
RICOH FF-3D AF SUPER
標準価格〈本体〉47,800円 専用ソフトケース2,000円

いつでも、どんなときでも、
撮りたいと思ったそのときの光景を、
やさしく美しく簡単に撮りたいな。
だからむずかしいテクニックなんか必要のない、
やさしいカメラが欲しいんだ。
何から何まで全自動の35mmコンパクトカメラ
「リコーマイポート」。
一台のマイポートがあるだけで、
毎日がもっと楽しくなる。